

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数			
医療健康 学部理学 療法学科	7人	9人	5人	0人	21人	14人	17人	0人	31人	7人
計	7人	9人	5人	0人	21人	14人	17人	0人	31人	—

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則  教育内容	相当授業  科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎教育 分野	科学的思考の 基盤  社会の理解  人間と生活	ICT基礎	14	上野 博	兼任
		大学生生活デザイン演習	14	上野 博	兼任
		生命倫理学	14	鄭 志誠	兼任
		人間関係論	14	小田切 紀子	兼任
		哲学	27	吉田 量彦	兼任
		倫理学	27	吉田 量彦	兼任
		芸術論	27	清水 良一 他	兼任
		文化人類学	27	植村 清加	兼任
		Introduction to American Society	27	MINCHILLO George	兼任
		法学	27	大塚 敬子	兼任
		憲法	27	槇 裕輔	兼任
		社会学	27	高田 知和	兼任
		現代の社会	27	柄本 三代子	兼任
		心理学概論	27	宇根 優子	兼任
		基礎統計学	14	竹内 宏行 他	兼任・専任
		環境と自然	27	筑井 麻紀子	兼任
		情報処理の基礎	27	筑井 麻紀子 他	兼任
健康・スポーツ科学	27	麓 正樹 他	専任・兼任		

基礎教育分野	科学的思考の 基盤  社会の理解  人間と生活	健康・スポーツ実技	27	麓 正樹 他	専任・兼任
		Oral Communication	27	HUGHES Devon 他	兼任
		Reading & Writing	27	MUELLER Kevin 他	兼任
		インターンシップ (体験型)	40時間	上野 博	兼任
		インターンシップ (実践学修型)	40時間	上野 博	兼任
		ボランティア活動	40時間	上野 博	兼任
		キャリア・Re-スタート	14	上野 博	兼任
		地域の安全と警察	14	平山 龍水	兼任
		観光まちおこし ワークショップ入門	14	桂 圭次 他	兼任
		観光まちおこし ワークショップ実践A	14	桂 圭次 他	兼任
		観光まちおこし ワークショップ実践B	14	前 好光	兼任
		観光まちおこし ワークショップ実践C	14	久野 道広	兼任
		観光まちおこし プロジェクトA	14	宮口 直人	兼任
		観光まちおこし プロジェクトB	14	宮口 直人	兼任
		観光まちおこし プロジェクトC	14	宮口 直人	兼任
		専門基礎 科目	人体の構造と 機能 及び心身の発達	運動解剖学	14
運動学	14			一寸木 洋平	専任
運動学実習	14			一寸木 洋平 他	専任
運動生理学	14			猪股 高志 他	専任
解剖学Ⅰ	14			小川 哲郎	専任
解剖学Ⅱ	14			小川 哲郎	専任
解剖学Ⅲ	14			小川 哲郎	専任
解剖学実習Ⅰ	14			小川 哲郎 他	専任
解剖学実習Ⅱ	14			小川 哲郎 他	専任
心身機能発達学	14			芝原 美由紀 他	専任
生理学Ⅰ	14			小川 哲郎	専任
生理学Ⅱ	14			小川 哲郎	専任

専門基礎 科目		生理学実習	14	小川 哲郎 他	専任
	疾病と障害の 成り立ち 及び回復過程の 促進	医学一般Ⅰ	14	岩瀬 利郎	専任
		医学一般Ⅱ	14	岩瀬 利郎 他	専任
		栄養学	14	加藤 チイ	兼任
		画像診断学	7	岩瀬 利郎	専任
		救急救命医学	7	高井 信朗 他	専任
		公衆衛生学	14	伊藤 久美子	兼任
		疾病予防と健康増進	14	杉本 諭	専任
		神経内科学Ⅰ	14	岩瀬 利郎	専任
		神経内科学Ⅱ	14	岩瀬 利郎	専任
		整形外科Ⅰ	14	高井 信朗	専任
		整形外科Ⅱ	14	高井 信朗	専任
		精神医学	14	岩瀬 利郎	専任
		病理学	14	岩瀬 利郎	専任
		薬理学	14	坂本 謙司	兼任
		臨床心理学	14	岩瀬 利郎	専任
	保健医療福祉と リハビリ テーションの 理念	健康ビジネス論	14	柏木 哲夫	兼任
		社会福祉概論	7	芝原 修司	兼任
		地域包括ケアシステム論	7	芝原 修司	兼任
		チーム医療論	14	猪股 高志	専任
リハビリテーション概論		7	山本 大誠	専任	
専門科目	基礎理学療法学	基礎理学療法学	14	猪股 高志	専任
		基礎理学療法学演習Ⅰ	14	猪股 高志 他	専任
		基礎理学療法学演習Ⅱ	14	猪股 高志 他	専任
		生体観察と触診法	14	志村 圭太 他	専任
		理学療法学概論	14	猪股 高志 他	専任
		理学療法学特論	7	猪股 高志 他	専任
		理学療法文献講読	14	諸角 一記	専任
		理学療法臨床英語	14	志村 圭太	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	14	神戸 晃男	専任
	理学療法評価学	機能・能力評価学Ⅰ	14	武田 要	専任

専門科目	理学療法評価学	機能・能力評価学実習Ⅰ	14	武田 要 他	専任
		機能・能力評価学Ⅱ	14	杉本 諭	専任
		機能・能力評価学実習Ⅱ	14	杉本 諭 他	専任
		臨床運動分析学演習	14	武田 要	専任
	理学療法治療学	ウィメンズヘルス・ メンズヘルス理学療法	14	武田 要	専任
		運動器理学療法学Ⅰ	14	窪田 智史	専任
		運動器理学療法学実習Ⅰ	14	窪田 智史 他	専任
		運動器理学療法学Ⅱ	14	窪田 智史	専任
		運動器理学療法学実習Ⅱ	14	窪田 智史 他	専任
		運動療法学	14	戸島 美智生	専任
		運動療法学実習	14	戸島 美智生 他	専任
		義肢装具学	7	芝原 美由紀	専任
		義肢装具学演習	14	芝原 美由紀 他	専任
		クリニカル・ リーズニング総論	14	二宮 省悟	専任
		クリニカル・ リーズニング各論	14	二宮 省悟	専任
		障がい者スポーツ支援論	14	志村 圭太	専任
		小児理学療法学	14	芝原 美由紀	専任
		神経・筋疾患理学療法学	14	酒井 美園	専任
		スポーツトレーニング特論	14	戸島 美智生	専任
		スポーツ理学療法学	14	戸島 美智生	専任
		スポーツ理学療法学演習	14	窪田 智史	専任
		神経理学療法学Ⅰ	14	杉本 諭	専任
		神経理学療法学実習Ⅰ	14	杉本 諭 他	専任
		神経理学療法学Ⅱ	14	川崎 翼	専任
		神経理学療法学実習Ⅱ	14	川崎 翼 他	専任
		疼痛理学療法学	14	川崎 翼	専任
		内部機能理学療法学Ⅰ	14	金崎 雅史	専任
		内部機能理学療法学Ⅱ	14	國澤 洋介	兼任
		内部機能理学療法学実習	14	金崎 雅史	専任
		日常生活活動理学療法学	7	池田 誠	専任

専門科目	理学療法治療学	日常生活活動理学療法学 実習	14	池田 誠 他	専任
		物理療法学	14	諸角 一記	専任
		物理療法学実習	14	諸角 一記 他	専任
		理学療法リスク マネジメント演習	14	二宮 省悟	専任
		理学療法学演習Ⅰ	14	諸角 一記 他	専任
		理学療法学演習Ⅱ	14	諸角 一記 他	専任
		理学療法学演習Ⅲ	14	二宮 省悟	専任
		臨床理学療法論	14	杉本 諭	専任
	地域理学療法学	介護予防評価演習	14	川崎 翼 他	専任
		生活環境支援理学療法学	14	池田 誠	専任
		地域理学療法学	14	酒井 美園	専任
		予防理学療法学総論	14	川崎 翼	専任
		予防理学療法学各論	14	山本 大誠	専任
	臨床実習	機能・能力評価学臨床実習	40時間	諸角 一記 他	専任
		総合臨床実習Ⅰ	40時間	杉本 諭 他	専任
		総合臨床実習Ⅱ	40時間	二宮 省悟 他	専任
	総合分野	総合理学療法学	28	武田 要 他	専任
		理学療法学研究法	27	一寸木 洋平 他	専任
		理学療法学研究実践法	27	戸島 美智生 他	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法の見学	1年前期	基礎理学療法学演習 I	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		理学療法学概論	1年前期
		解剖学 I	1年前期
		解剖学実習 I	1年前期
		生理学 I	1年前期
理学療法検査の実践	2年後期	運動解剖学	2年前期
		機能・能力評価学 I	1年後期

理学療法検査の実践	2年後期	機能・能力評価学実習 I	1年後期
		解剖学 II	1年後期
		解剖学 III	1年後期
		生理学 II	1年後期
		運動学	1年後期
		解剖学実習 II	1年後期
		基礎理学療法学演習 II	1年後期
		機能・能力評価学 II	2年前期
		整形外科学 I	2年前期
		医学一般 I	2年前期
		運動学実習	2年前期
		機能・能力評価学実習 II	2年前期
		運動生理学	2年前期
		理学療法学演習 I	2年前期
		神経理学療法学 I	2年後期
		神経理学療法学実習 I	2年後期
		理学療法学演習 II	2年後期
		理学療法リスクマネジメント演習	2年後期
		運動器理学療法学 I	2年後期
		運動器理学療法学実習 I	2年後期
		整形外科学 II	2年後期
		義肢装具学	2年後期
		義肢装具学演習	2年後期
		臨床運動分析学演習	2年後期
		日常生活活動理学療法学	2年後期
		日常生活活動理学療法学実習	2年後期
		画像診断学	2年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	医療健康学部自己点検・評価ワーキンググループ	
委員名（委員長）	高井信朗(学部長)、麓正樹(学科長)、猪股高志(学科長補佐)	
組織の開催頻度	1年に一度	
組織の取り組み内容	・各科目教育内容の確認	
	・各科目シラバスの確認（コアカリキュラムとの齟齬はないかなど）	
	・教育改善の研修会の開催企画	
自己点検・評価結果の公表	HPで公表	

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	第三者チェック体制
	委員構成等	学長、学部長、教務部等
	改善の仕組みの実際	学部完成年度（2024年度末）までは、原則文部科学省設置認可時のシラバス記載内容を変更することはしていない。 しかしながら、シラバス記載内容を改善する仕組みとしては、毎年度「シラバス作成要領」により、毎回の授業テーマ及び授業内容の記述を体系的な視点から授業の位置づけ・学修の狙いが見えるよう配慮した記述となるよう促し、実質性のない授業計画にならないよう具体例を提示している。シラバス作成過程では教務部の担当職員が確認を行い、実質性がない場合は改善を指し示し、改善されるまで再作成を依頼している。その後、学部長、学長による確認を行っている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

講義内容はガイドラインに従いコアカリキュラムを基礎にして作成しており、漏れ等がないかについてすでに複数回確認を行っている。しかしながらシラバス内容と実際の講義が時間と共に僅かずつ変わっていくこともあり得ることから、教育内容の確認については、学生からの授業評価内容ならびに定期試験の全体の成績からその妥当性について検討を行っている。その確認のための会議は前期、後期それぞれ1回ずつ定期試験終了直後に行っており、必要に応じて担当教員へのフィードバックを行うこととしている。

第3者評価については本学はまだ学部完成年度を迎えておらず、受けてはいないため具体的な対応策を持たないが、学部完成年度以降は速やかに第三者評価を受ける予定としている。また、その際の結果については学部会議で学部全教員が共有しワーキンググループ（第3者評価後に立ち上げる予定）を中心に具体的改善案を策定する予定。